



中村俊定文庫
文庫 18
438
2





湯に下

蓮の花

蓮の花







村言り晴月不清一籠子灯声

宮子宿して仍先さも。去るくとも是等や。むう一海邊を
くはれあててついで。海深きふいけ一浦やまゝぬえ上
せしむる人かぬくともけい。音存れ浪星波松風夜を
の里と其隣とぬえ。波なく風雨はらぐ。海と里と隣間と
たらかくも今川等えお死の古戦場桶狭とやらとらうふ
色も道に向雨はれぬ。風旅客乃笠を剥れ
久天、抛。八大龍王とまるとかやあらと冷しく三河路
そめつとやまのまゝ。雨こゝ小雨やまのこゝ。室代やま
かゝる少くも。かゝる世もまゝ。まゝも。八橋乃舊地
哉。其日の岡崎は宿。はなぬ色もはらぐ。てい。や雨

濕衣をうりて心はほそけり。地人酒くく。いひのこゝろのあも
ちかぐ巨燈に鹿とさう。例乃小きい此は日

鳴海深

ついでまれば汐路も遠一八重宿

松風の里

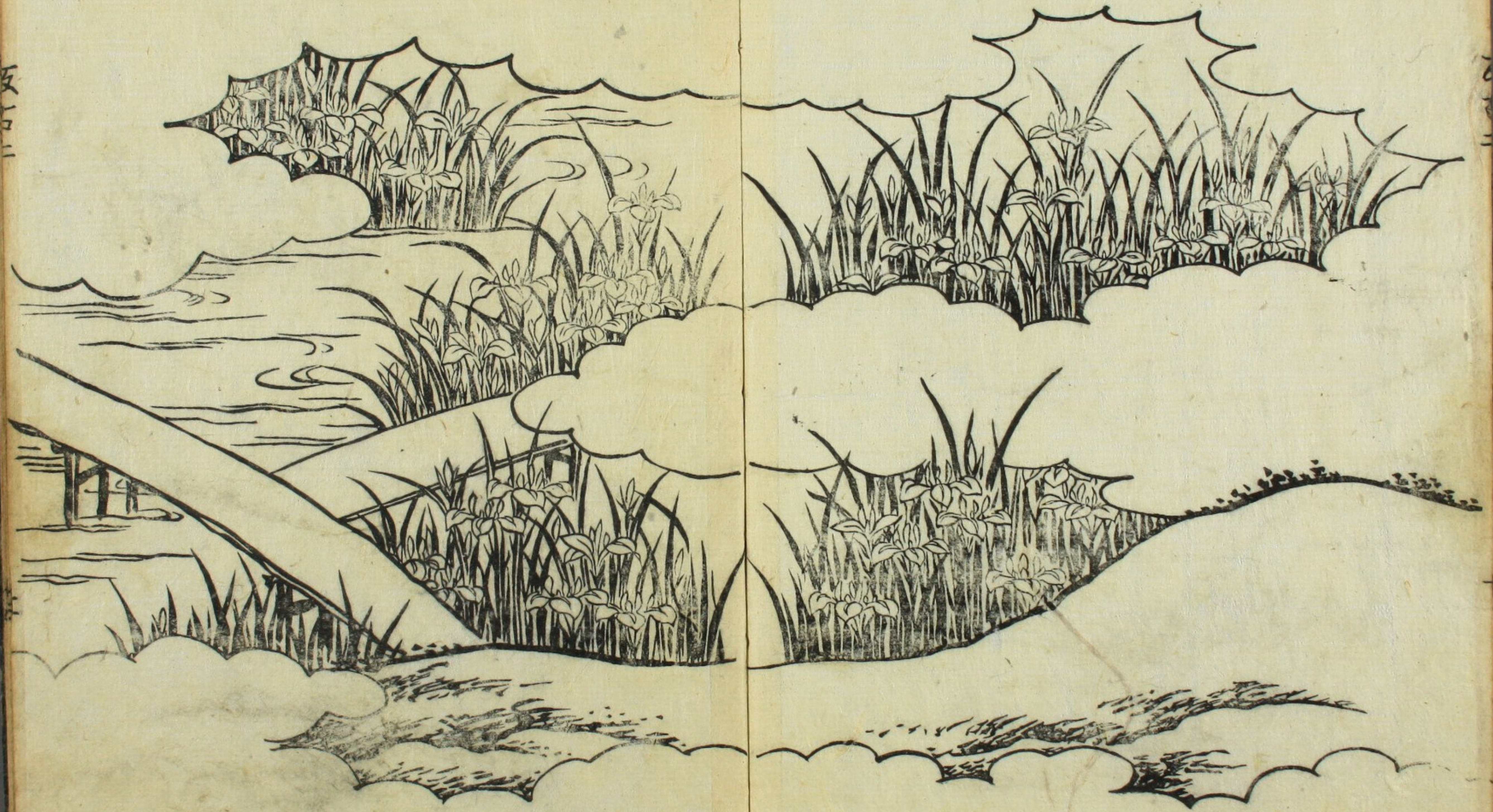
言はぬ残むる立松のゆゑ一琴

おき乃里

散り松とあやまて。てい。はらぐ。被せし室

杜若舊地

八橋乃舊地。の。燈。の。那。



あふは日ハもや遠江乃四ノ入ぬ。懐古今小白き代ナめらと
吹越汝風と付。則白浪更乃古と水也。信前あの子は塔
見極乃古のもあまやとく。板下是ハ名ナくおふ七十五里灘
浪波云とひやとく千里花孤帆去いふ。晴るる春并
つ一遠一

佐保姫乃水作と鶴もさうとり利

浪名橋

西影の形一浪秋の浪 ともあり

山井宮

かき籠乃、春ハ甘き道一 多原山

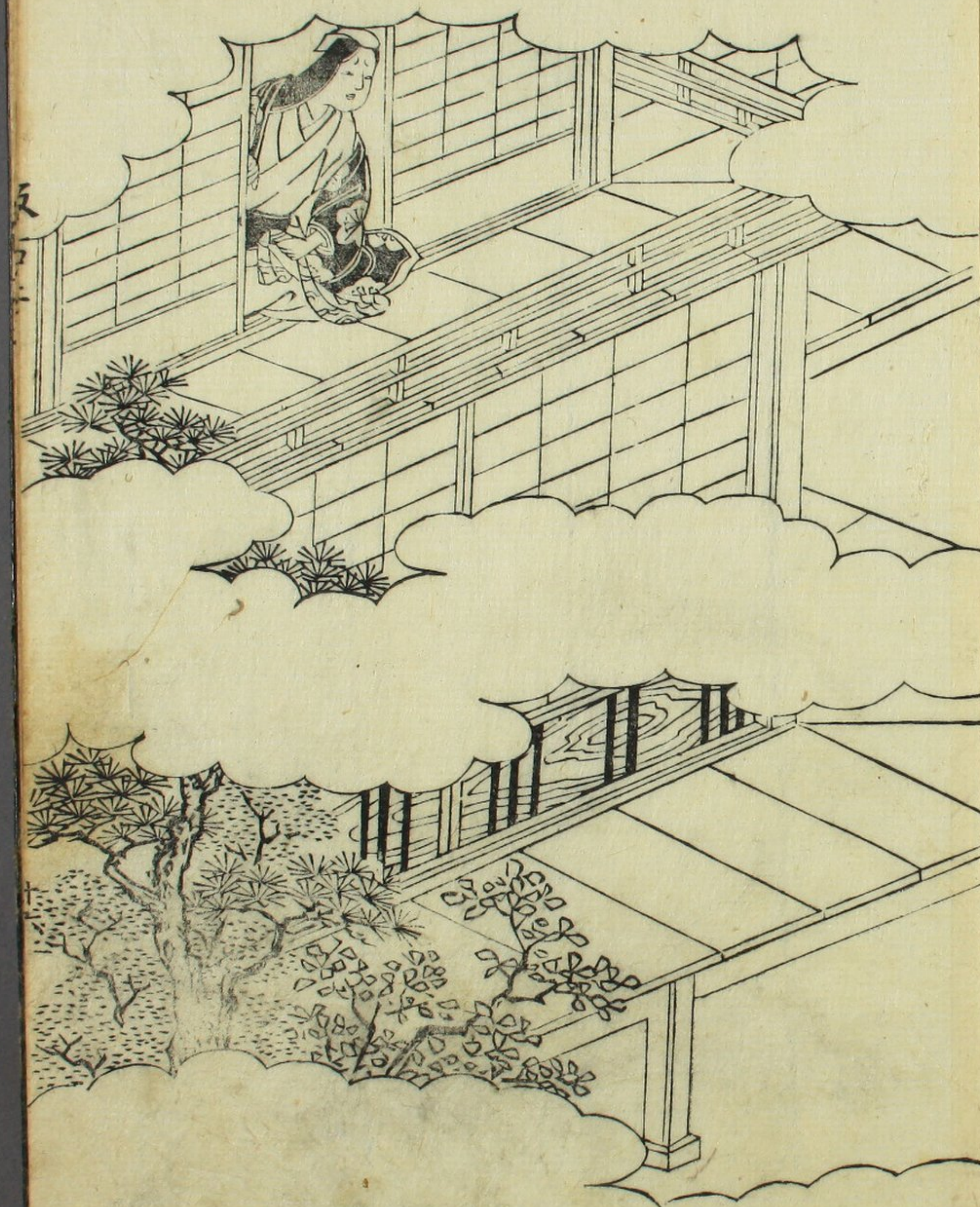
あふハ乃浪一もたしとふ。春板乃古と揚一 春日を信和

十一日午後。十九日ふゆとさうと天字とく心ふ小日初ノ宮原家
乃若物もは種ノ関口とく僕ガあひそれ乃重みと信和家
春乃若く、蕨候も我振とて。さやあり乃若ハ小葉と新也
初信。とらふさうとく小葉とあう記信をよめりもたしとて天
竜乃浪一あや

新多く、今新多く我もみまは神

池田宮舊懐

朝魚もさうあまのはや 懐りゆい
其あ子乃此とく改く出。まもふとやまもく。高々
時信道一とらと。板ハかたはるお原とまに相成と新一
新多く、初乃の他とて。信和と 予も初乃の初とて。お色



賞と仰中庭庭乃若きなり

世二日收晴し一凡子然富成之。我のくみ中將重海ととな
くき免し千々然あはけも越村乃若れ娘とちり

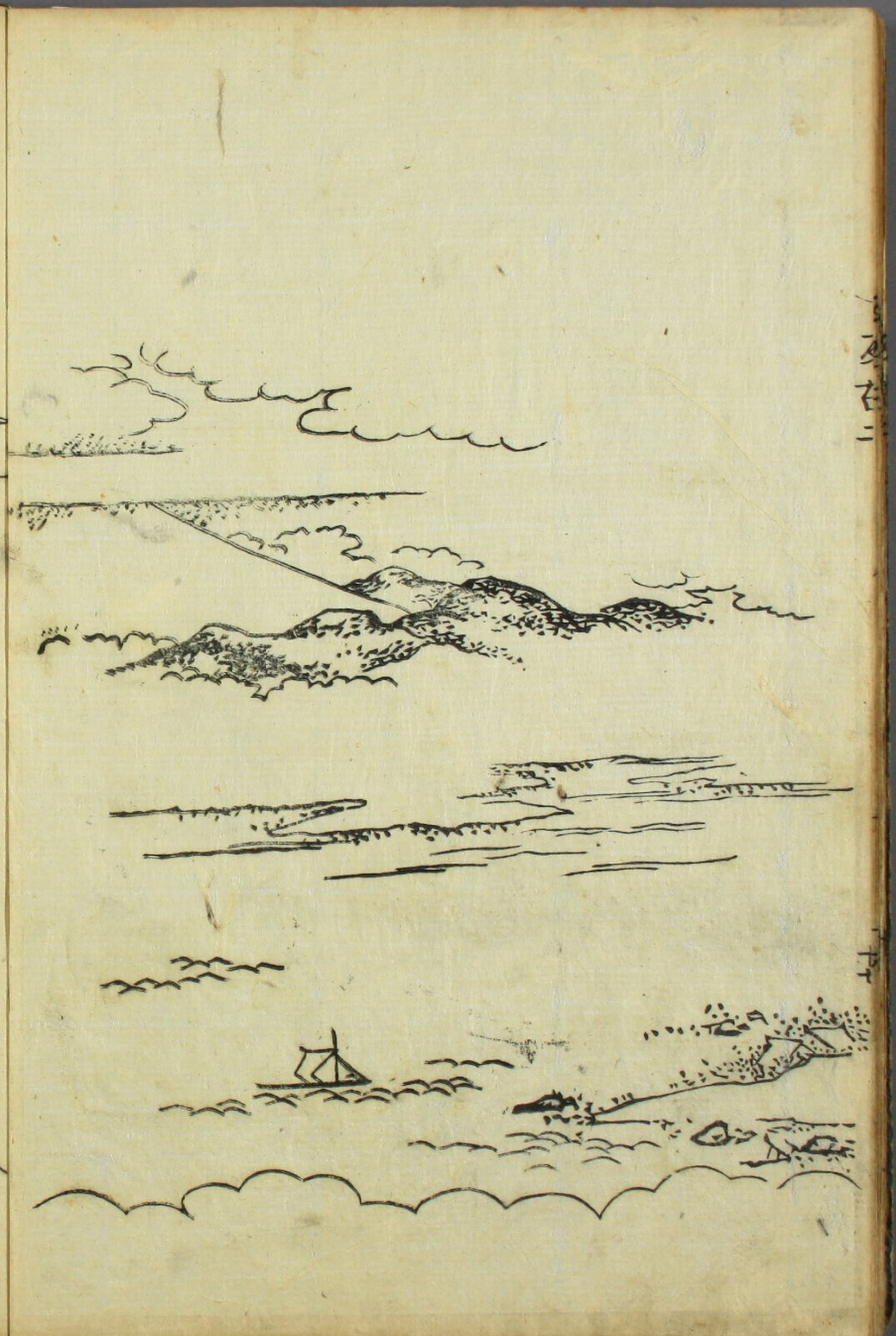
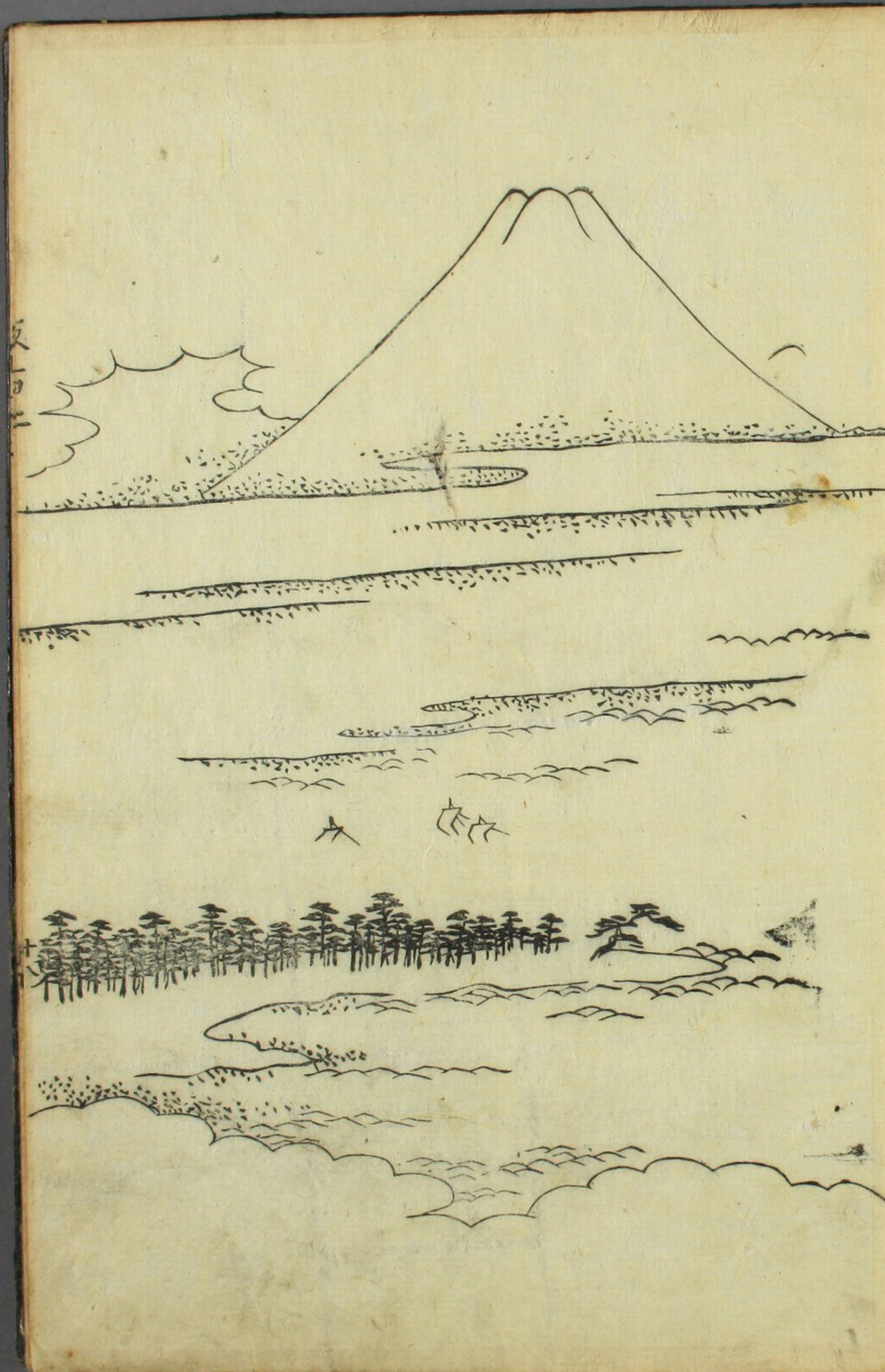
所考乃むし我々相う谷

河部川

少くとも目より已成るは河部

河乃若くは船もいづりては。江戸乃宿もくも。磐城山。
わぢい乃相系。唐系横河。天保乙女も存し。清乃考
ふき多き之保り。晴乃晴なり。天保乙女も存し。清乃考
明も別もくも。真乃里小波の神。浦乃若くも。落城跡の
想もきくも。風系。た右乃伸も。流に瀬伊豆乃。清乃考







明の法

維新の法

あつたも本義乃まはるは和宗川お宿一廿七日の
花乃お江戸人法乙と心よ一
の事おんいふころ毎家乃
入口よりいなく振す言
房と縁お換乃沖一面ホ
かく系帆着る帆漸こた
くお福船改造乃見れ
船百乃料理を人
ちふ目さし



竹のあな道中をうぶ家
をくし海州多乃旅館
をくし海州多乃旅館

